

今月のみことば 2018年12月

**「あなたがたは、私たちの主イエス・キリストの恵みを知っています。
すなわち、主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。
それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。」
(IIコリント8章9節)**

ビジネス界の大立者の逮捕、という衝撃的なニュースが世界を駆け巡った。日産のカルロス・ゴーン会長に、120億円にのぼる不記載報酬があった、というのである。

120億円という金額は、庶民が一生お目にかかることのない天文学的な数字である。ちょっと計算してみた。もし、ゴーン氏がリストラしたという21,000人に平等に分配したとすると、一人あたり、570万円が行き渡ることになる。そして、生涯年収を1億円とした場合、120回の人生を送ることができる計算となる。人生80年とした場合、1万年近くも生きられる費用だ！腹立たしく思うのは、そのような報酬額を本人が決めている、ということである。解雇された人々の怨嗟の声が聞こえてくるようだ。

あの「パナマ文書」も、その一端が外部に洩れたことにより、世界の名だたる富豪が、税金逃れのためにパナマに巨大な資産を秘匿していたことが判明した。まともに税金が収められていたら、欧州の経済問題は一挙に解決する、というほどの額であったという。



アメリカでも貧富の格差が拡大の一途で、人口の1%の富裕層の資産は、残りの99%の国民の資産に匹敵するのだそうだ。「七つの大罪」といって、人々が神の怒りを恐れた罪の中に「貪欲」が含まれていた、という歴史が遠い過去のように感じられる。

しかし、聖書は言う。「金銭を愛する生活をしてはいけません。いま持っているもので満足しなさい。主ご自身がこう言われるのです。『わたしは決してあなたを離れず、また、あなたを捨てない』」(ヘブル人への手紙13章5節)。神が私たちとともにいてくださる、という安心感は、富のもたらす安心感とくらべものにならない、と。

イエスの生き方は、その気になればいくらでも富を手に入れることができたのに、金銭とは全く無縁のものであった。大漁の奇跡は、漁師ペテロが持ち舟を提供してくれたことのお礼であった。男だけで五千人という群衆を満腹させたパンの奇跡において、人々は一円も払う必要がなかった。無数の人々が不治、難治の病から癒やされたが、治療費はただであった。天地のすべてはキリストのものであったのに、生誕の時の飼葉桶も、湖上からの説教に使った小舟も、エルサレム入城のときに乗ったロバも、最後の晩餐を食した座敷も、そして、葬られた墓も、すべては借り物だった、ということに改めて驚かされる。

そればかりか、キリストは「子よ、あなたの罪は赦された」(中風の人に向かって)と言い、「わたしもあなたにさばきを下さない」(姦淫の女に対して)、「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます」(十字架の強盗に対して)宣言された。私たちに払いきれない罪という借金をご自身が十字架上で身代わりに受けてくださったことによって、天国への道が初めて開かれたのである。

由木康氏の名曲「馬槽のなかに」が、改めて思い出される。

馬槽(まぶね)の中に 産声(うぶごえ)あげ / 木工(たくみ)の家に 人となりて
貧しき憂い 生きる悩み / つぶさになめし この人を見よ

食する暇も うち忘れて / 虐(いた)げられし 人を訪ね
友なき者の 友となりて / 心砕きし この人を見よ

すべての物を 与えし末 / 死のほか何も 報いられで
十字架の上に 上げられつつ / 敵を赦しし この人を見よ

